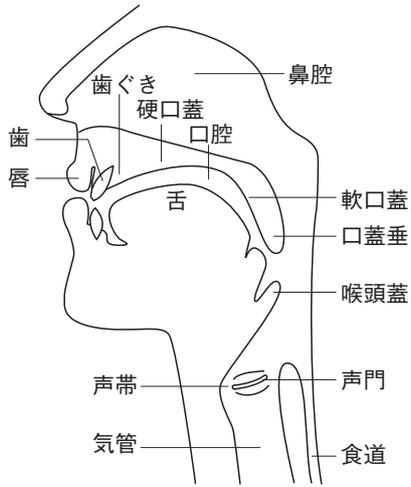


図7 口の中の調音点など



「パ」「バ」「マ」は、唇、「ヤ」「カ」「ガ」より前で、「サ」「ザ」「タ」「ダ」「ナ」より奥となります。「ラ」は舌先の歯ぐきです。「ワ」は、両唇と口の奥。口の奥を口蓋とよび、そこから、軟口蓋（のどちんこの柔らかいところまで、後舌）、硬口蓋（口の内の上の固いところ、前舌）と前に向かいます。「カ」「ガ」は軟口蓋、「ヤ」は硬口蓋で調音されています。ちなみに、「f」「v」は唇、歯で、「th」は歯（舌先、歯）で妨げて音にします。

4 子音、調音点、調音法の違い

子音は、息を断ったり、流れを狭くしてつくる音です。口腔のどこで操作するかによって、違った音になります。その場所を「調音点」といいます。

息や声、口・鼻から出るまでに、何かで妨げられて発する音の子音といえます。「ピ」「ミ」は、上唇と下唇で息を妨げて出します。

このうち、あまり動かないのを調音点といえます。ここでは、上唇です。

「タ」「ナ」は、上の歯ぐきと舌先で妨げます。調音点は、上の歯ぐきですが、発音のしかた（調音法）は、違います。「ミ」は鼻から「ピ」は口から出ます。

「パ」「バ」では、調音点も調音法も同じです。「バ」は声に伴わず、無声音。「バ」は声に伴い、有声音といえます。

つまり、調音点、調音法、有聲か無聲かの3つから子音は分けられます。

「パ」で、上唇と下唇を閉じてから出すのを調音法で閉鎖音、音を閉鎖音（破裂音）といえます。それに対し、「セ」「フ」のように、一部が狭いすき間をつくって、そこを息や声を通るときにつくられる音を、摩擦音といえます。

「ツ」は、上の歯ぐきと舌先で閉鎖をつくり、閉鎖音として出しますが、長く続けると、「ス」と同じようになり、摩擦音となります。このように、閉鎖音で始まり、摩擦音で終わるのを、破裂音といえます。「チ」「ズ」も同じです。

「ミ」「ナ」は、鼻から出る鼻音です。

「ラ」は、上の歯ぐきを舌先で一度はじきます。

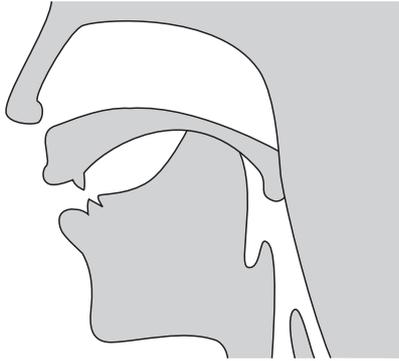
つまり、調音法で子音は、閉鎖音（「ペ」「ギ」「ド」など）、摩擦音（「サ」など）、破裂音（「ジ」「ツ」など）、はじき音（「リ」など）、鼻音（「ネ」など）とあるのです。

「カ」「ガ」は、口の奥が上がり、

「サ」「ザ」「タ」「ダ」「ナ」は、舌の先が持ち上がります（歯ぐき）。

「ハ」が、どこも触れないのに対し、

図8 カ行音



○カ行音…カ [ka] キ [ki] ク [ku] ケ [ke] コ [ko]
 日本語で最も語数が多いのが、カ行、ガ行で始まることばです。
 カ行の子音「k」は、奥舌と軟口蓋でつくる破裂音です(図8)。「クックック」と笑ってみてください。奥舌を軟口蓋につけて息の出口をふさぎ、息を吐き出すとき、この閉じた部分をつき破ることによって発音します。

「アカアカ」をくり返してみましよう。鏡でみると、のどの奥(軟口蓋)の口蓋垂に舌が盛り上がります。「カクケコ」はこうして発音されます。英語の「k」はもつとべったり、舌の根元がつきま

○キとカクケコの違い

「カキカキ」と言いながら、鏡でのどをみてください。
 軟口蓋は「カ」でみえるのに、「キ」ではよくみえません。
 舌の手前が盛り上がるからです。

「キ」「ki」は、「イ」の発音につられて、舌の接点が他のカ行音よりも前で硬口蓋になります。これを口蓋化といいます。
 口蓋化は、他の行にも出てきます(調音点は、前方から、キ↓ク、ケ↓カ↓コの順です。また、「キ」「ク」は、無声化することがあります)。

舌の位置は、舌尖、前舌、後舌の3つに区別します。

○調音点での子音の分類

- ①両唇音 「パ」の「p」 両唇を使って発音する。
- ②歯茎音 「タ」の「t」 舌尖と歯ぐきで発音する。
- ③硬口蓋音 「チ」の「t」 前舌と硬口蓋で発音する。
- ④軟口蓋音 「カ」の「k」 後舌と軟口蓋で発音する。
- ⑤声門音 「ハ」の「h」 声門で発音する。

○調音法での子音の分類

- ①破裂音 調音器官のどこかで閉鎖をつくり、息をためて、急にその閉鎖を開放すること
で生じる。(息をせき止めて、パッと解放する) (p b t d k g)
- ②摩擦音 「シ」「si」 息の通り道を狭くして押し出すことで生じる。
- ③破擦音 「ツ」「t」 舌尖を歯ぐきにつけて、息が舌尖と歯ぐきとの間を通ること
で生じる。
- ④弾き音 「ラ」 前舌が硬口蓋に近づき、舌尖が歯ぐきを、はじくことで生じる。
- ⑤鼻音 鼻にかける。
- ⑥半母音 完全な閉鎖も狭めもなく発音する。

5

子音の発音トレーニング① カ行、午後の「t」と「t」の違い